

お燈明

お燈明を灯す

お寺やお家でご本尊にお参りするとき、お燈明を灯します。それは、朝のお勤めが早い時間であること、夕べのお勤めが夕刻であることもあります。ご本尊をはっきりと拝むという理由もあります。

わたしたちは、悩むとき、悲しいことがあるとき、こころが暗く、先が見えなくなります。み仏さまはわたしたちが暗闇で道に迷ったとき、「ともしび」として照らしていただき、すすむべき道を示してください。

暗闇と「ともしび」

真っ暗な闇のなかで出会う、お燈明の「ともしび」は、本当にこころの拠りどころです。暗闇のなかで、恐怖におののくわたしたちを安穩に導いてください。

出典 幡谷敦信「三月教案」供養
（『児童と宗教』3巻3号より、一部抜粋、現代語訳）
リライト “サガエさん” こと佐賀枝夏文